

リニア残土 相模原に処分場

「水源地守れ」市民団体反対

JR東海は25日、リニア中央新幹線のトンネル掘削工事に伴う残土（建設発生土）の処分場として、相模原市緑区の道志川そばの砂利採取場跡地2カ所を活用する計画を明らかにした。道志川は横浜市営水道の取水口があり飲用水として利用されていることから、地元住民らでつくる市民団体

「リニア新幹線を考える相模原連絡会」は「水源地が汚される恐れがある」と反対している。

JR東海によると、処分場は同区寸沢嵐と、同区牧野の砂利採取場跡地を活用。同区「山梨原上野原市」を結ぶ「藤野トンネル」の掘削工事で排出される残土（約200万立方メートル）の一

部を搬入、砂利採取場跡の埋め戻しに使用する計画という。

残土の運搬車両の走行距離を短縮するため、同区寸沢嵐の処分場近くに「新戸非常口」を、同区牧野の処分場近くに「大洞非常口」をそれぞれ建設する。非常口は別の場所に建設予定だったが、処分場計画に合わ

せて変更した。

JR東海は「（採石時の災害防止などを定めた）採石法に基づいて安全性を確保した土を搬出する。処分場の安全性は業者が確保す

ると認識している」と説明している。

これに対し、連絡会は水源地の汚染の懸念を募らせる。処分場近くを流れる道志川には横浜市営水道の「鮎子取水口」があり、飲用水を提供しているからだ。

メンバーの一人は「処分場から道志川に、土砂や掘削工事で使用された有毒物質が流れ込む可能性がある」と指摘する。業者は任



せず、JR東海が水源地を守るための安全対策を取るべきだ」と批判。道志川の水を水道水として使っている横浜市民と連携し、反対運動を進めていくという。

また、JR東海は同日、同市緑区の橋本駅付近に建設されるリニア神奈川駅について、奥村組を代表構成員とする共同企業体（JV）と工事契約を結んだことを明らかにした。

リニア中央新幹線は品川～名古屋間を結び、2027年中の開業を目指して工事が進められている。

（佐野 克之）